

第3版の序

肺と心臓は隣り合って直結している臓器で、互いに強く影響しあっている。特に近年、リハビリテーションの対象が、多疾患・重複障害を有する高齢者が多くなったこともあり、リハビリテーションを行う際には、多臓器への配慮がますます重要になってきている。

しかし、リハビリテーションの診療報酬体系は疾患別が継続され、リハビリテーション専門職も分科した学会などで疾患別の専門性を追求することを求められ、臓器や機能の相互連関をはじめとして身体全体をとらえることがいまだに疎かになっていることは否めない。今後さらに患者の高齢化が進むと予想されていることから、「疾患を診るリハビリテーション」から「ひとを診るリハビリテーション」へのパラダイムシフトを加速する必要がある。

本書は第2、3章と疾患ごとのリハビリテーションで構成されているが、リハビリテーションの本質は評価にある通り、入り口の第1章で評価の共通性を強調した。また、第3版でも現場重視を貫き、リハビリテーションプログラムの実際をふんだんなカラー写真で解説した。最新のガイドラインに基づく記述に徹底し、臨床のコツや工夫を随所に盛り込むことで、初心者にも理解しやすく、すぐに役立つ実践書として磨きがかかった。

思い起こせば、15年ほど前に、「新しい呼吸と心臓のリハビリテーションの本をつくらないか」と、監修の居村茂幸先生にお声掛けいただき、神戸で最も古いイタリア料理店でその構想を熱く語られていた居村先生のお姿が臉に浮かぶ。予約されていた席に着く前、編集者の鈴木美奈子さんの椅子をそっと引く姿は、紳士そのものであり、リハビリテーションにもつながる他者への配慮を垣間見た瞬間であった。居村先生の御霊の平安をお祈りし、先生の想いを少しでもこの本に乗せて読者に伝えられれば幸いである。

最後に難しい改訂作業を驚異的な正確さと丁寧さでサポートいただいた羊土社編集部の寺山七夢さんに心より感謝いたします。

「すべては患者さんのために」

2024年1月

順天堂大学保健医療学部理学療法学科
高橋哲也

第3版の序

「呼吸・心臓リハビリテーション」の初版が2009年（平成21年）に出版されてから15年が経過する。本書は、居村茂幸先生監修のもと高橋哲也先生のアイデアを盛り込み、呼吸・循環器系疾患にみられるさまざまな病態・障害像に対し、急性期から生活期に至る多種多様な場面で、すぐに役立つ実践的教科書本として作成・改訂されてきた。その結果、大変多くの方にご活用され、第3版の作成となった。

本書が出版された以降も、本邦における循環・呼吸器疾患による死亡者は増加し続けている。厚生労働省の人口動態統計月報年計の死因別でみた死亡率は、心疾患は悪性新生物に次ぐ2位、呼吸器疾患は肺炎、誤嚥性肺炎、慢性閉塞性肺疾患などを合計すると、心疾患に近い死亡率となる。

さらに、1人の患者に多くの慢性疾患が併存する多疾患併存状態の患者が増加している。併存している疾患もまた循環・呼吸器疾患が多くを占めている。このような社会状況のなかで、これら疾患に対する急性期、回復期、生活期までのシームレスなリハビリテーションの対応が強く求められている。つまり、脳神経外科や整形外科の専門病院でもリハビリテーションを行う場合、これら疾患に対応する知識・技術が必要となってきている。急性期病院や医療資源が限られる地域では、さらにその必要性は高まっていることになる。そう考えると本書の役割は、初版出版時よりさらに増してきているように思う。

最後に、初版出版以来、監修をしていただきました居村茂幸先生が昨年お亡くなりになりました。謹んでご逝去を悼み、長年にわたり本書作成にご尽力いただいたご功績に対し、あらためてお礼申し上げます。

2024年1月

甲南女子大学看護リハビリテーション学部理学療法学科
間瀬教史